

須貝貫二氏 勲五等に叙せられる

佐藤 良昭 (燃料部)
Yoshiaki SATO

元燃料部石炭課長 須貝貫二氏は 昭和58年春の叙勲にさいして 勲五等瑞宝章を授与され 5月11日に伝達式が行われました。心から御祝いを申し上げます。

氏は昭和10年 東京帝国大学理学部地質学科を卒業 ヤマト製作所を経て 昭和11年4月 満州鉱業開発株式会社に入社され 昭和20年8月 終戦により同社が解散するまで 現在の中国東北部において 石炭・マンガン・石灰岩鉱床などの地下資源調査に従事されました。

昭和20年10月 商工省地下資源調査所(現地質調査所)に嘱託として入所 当時の緊急課題であった石炭資源の確保・開発のため 炭田・亜炭田の炭量・炭質調査にあたられました。昭和23年8月 地質調査所北海道支所の燃料課長となり 27年8月には本所燃料部の石炭課長に任ぜられました。

地質調査所に在任中は 我が国主要炭田の石炭調査長期計画を立案 特に未開発炭田の調査研究を強力に推進指導されました。その1つとして特記すべきものは 北海道雨竜-留萌炭田の総合調査の実施でありましょう。この調査は昭和29年から35年の間行われ 地質・地形調査合計42班を動員した大規模なものです。北海道山中のキャンプ生活 大縮尺の実測地形図を利用し 沢の1本1本を踏査する地質精査 古生物学 堆積学の手法もとり入れての地質検討 解析など 未開発炭田の総合的地質調査手法の基本様式を確立したものであります。

昭和36年3月には「雨竜-留萌炭田の層序構造学的研究」と題した論文により 東京大学から理学博士の学位を授与され 昭和40年5月以降 燃料部主任研究官としてはさまざまな業務の間に 上記研究の集大成である日本炭田図「雨竜-留萌炭田地域の地質図ならびに説明書」をとりまとめ 昭和43年 地質調査所から出版されました。

さらに平原や海底下 あるいは火山岩類の下に予想される伏在炭田開発のための調査 資源・保安上重要な炭田ガス調査 炭層に伴うゲルマニウムやウラン資源の調査などの研究活動を精力的に実施し後進の指導にあたられました。また昭和39年の新潟地震には直ちに現地調査に赴かれ その他各種審議会専門委員等として 広い



須貝貫二氏

分野で活躍 優れた業績をあげておられます。

昭和44年10月 地質調査所を退官後は 大成建設株式会社の技術顧問 株式会社日さくの顧問を歴任 土地地質学 試錐調査など応用地質学の方針でも その深い学識と豊富な経験を生かして活躍 貢献されています。

終りに 氏の今後ますますの御発展と御健康を 心からお祈り申し上げます。



勲記